

文化財石垣保存技術協議会会報

令和元年（2019） 第22号 —令和元年度事業報告—

技能者養成研修・実地研修1

日時 令和元年7月13日（土）～15日（月・祝）
場所 日本城郭研究センター（兵庫県姫路市）
受講生 技能会員 19 名、技術・研究会員 6 名、評議
会員 1 名、一般会員 5 名、講師 9 名、事務局 1 名

研修内容

日	講習内容	講師
7/13 (土)	テーマ「野面積み石垣」公開講座	
	近畿の野面積み石垣	山上 雅弘 ((公財)兵庫県まちづくり技術センター)
	四国の野面積み石垣	楠 寛輝 (松山市教育委員会)
7/14 (日)	テーマ「間詰補修」	
	姫路城の間詰石 現地見学・討論 〔特別史跡姫路城跡南勢隠門〕	
	間詰補修工事の施工方法	荏本 久 (当会監査役)
	史跡岡山城跡の野面積み石垣と間詰石	乗岡 実 (丸亀市教育委員会)
	石垣における詰石の構造的役割	笠 博義 (株式会社・間 技術研究所)
	これからの文化財保護と石垣整備	中井 将胤 (文化庁記念物課文化財調査官)
7/15 (月)	総括討論	宮里 学 (山梨県埋蔵文化財センター) 西田 郁乃 (石川県金沢城調査研究所)
	歴史的建造物の復元と石垣【総会記念講演兼】	北野 博司 (東北芸術工科大学教授)

受講者の声

河田 浩彦(技能会員)

今回の姫路研修で間詰石の役割が今以上の強度が増すという結果に驚きました。間詰石とは築石の隙間を埋める目的であると同時に栗石や土を止める役割だと思っていた。

今後自分が間詰石を入れる作業では、状況を見て自分で判断しかねる時は、役所の担当者もしくはコンサルなどに相談し、間詰石をどのように施工するか方針を決めて(石種・安全・見た目)、間詰石を入れるようにする。

また石垣の保存で大切なのは、やはりメンテナンスだと思いました。石垣の間に入った草やゴミなどを取り除き、間詰石や築石が動いていないかチェックすることが大切だと思いました。

今回の研修で一番難しかったのは、文化財と安全です。自分が石工なので、丈夫な間詰石を施工したいのですが(裏込石を詰め込み、控えの長い石で隙間に合う大きな石で間詰石を入れる)、文化財的には強度がなくても元に戻す。その矛盾点が自分にとって一番難しいことだと思った。

今後間詰石の修復工事が増えていくと思うが、役所の担当者やコンサルなどが、どのように線引きをするのか、石工として考えどころである。



研修の様子（姫路城跡の現地見学・討論）



質疑応答の様子

指導者養成研修生の声

諏訪 匡(技能会員)

お疲れ様です。今回は間詰石を課題とした講座でなかなか面白かったです。姫路城内で発泡スチロール(?)を使ったのは、なかなかのアイデアで良かったです。しかしどこかで石材を使ってやってみたいです。やはり石工のセンスも解りますし、石の使い方も見れるからです。

なぜ間詰石をを使いのか?玉石、加工材、どれだけ使用するのか、どこからどこまでが間詰石なのか、まだまだ課題もありますし、第2回もやってみては良いのではないかと思います。

来年の総会の時も何かやるとは思いますが、参加されるメンバーによって内容を2つ、3つに分けたら良いと思います。例えば石積経験が初めての人、何度かの経験者、多くの現場経験者です。

あくまで研修ではありますが、初級者が解るように、その上のメンバーはおさらいとなりますし、見直しのチャンスでもあるからです。

石積みもそうですが、間詰石についても場数、経験だと思います。たくさんの現場、たくさんの石垣の見学、たくさんの経験が必要だと思います。

私もまだまだ経験不足なところがありますので、研修生と一緒に勉強していきます。

これから研修内容についても、打合せが大事になるのではないかと思います。

◇令和元年度総会が開催されました

日 時 令和元年7月15日(月・祝)

場 所 日本城郭研究センター大会議室

出 席 評議員8名、技能会員43名、技術・研究会員31名、一般会員5名、賛助会員2法人、事務局2名

来 賓 中井将胤 文化庁文化財部記念物課文化財調査官

山下史朗 兵庫県教育委員会文化財課長

坂田基秀 姫路市教育委員会教育次長

記念講演 歴史的建造物の復元と石垣

北野 博司(東北芸術工科大学教授)

主な議事 (1) 平成30年度事業報告、決算報告、監査報告

(2) 平成31年度事業計画、予算案



総会の様子



記念講演 北野 博司氏(東北芸術工科大学教授)

記録保存事業

日 時 令和元年6月1日(土)～3日(月)

場 所 福田港隣接広場(香川県小豆島町)

内 容 矢穴による石割りと行程の記録撮影



石材加工の様子



矢穴の記録と記録撮影

実技研修（熊本）・実地研修2

日 時	令和元年10月19日（土）～22日（火・祝）	内 容
場 所	特別史跡熊本城跡（熊本県熊本市）	19日 熊本城跡石垣調査
受講生	技能会員 18名、技術・研究会員 5名 （講師 22名、事務局 1名）	20～22日 実技実習（石割・石積・鍛冶） 22日 後片付け



研修の様子

受講者の声

宮崎 豊（技能会員）

昨年に引き続き、石材加工の実習を行いました。今回は研修生にて石材の面・腹を事前に検討し、割るラインを決定するという実践上の指導をして頂き、大変勉強になりました。実際の矢穴彫りにいたっては、石頭を上手く振ろうと意識した結果、矢穴の形状が悪く、左右非対称であったり、矢を打ち込む際に、矢と矢穴のあたりが点で当たったりと、昨年指導して頂いたポイントを押さえることが出来ませんでした。

造園業という仕事柄、普段は城郭石垣に携わることがない事から、昨年の研修から一度もノミと石頭を触る事はありませんでした。今回、普段から石材を扱われている石工さん（研修生）と並んで作業するなかで、技術の差を身にしみて実感しました。

熊本城の石垣復旧に携わりたいという思いだけが先走りしてはいけませんので、今後は石材と時間をみつけて実習（特訓）を行い、本職の石工さんに追いつけるように頑張りたいと思います。

石積み班の研修を見学するなかで感じた事は、熊本城の石垣復元はやはり特別ですごく困難だなと思いました。通常であれば解体前に石垣の面、四方に墨打ちをしたり、模写や撮影による詳細な記録をしたりと、万全の体制で復元するものだと思います。熊本城（今回の研修）にいたっては、写真をもとに隣りあう石材どうしの間隔や、当て場所、角度などを決定し、積み上がっていかないとはいけません。しかし、一段目を写真のとおり据え終わっても、上の段までうまくいかず、再度一段目を据え直したりと根気のいる作業のようでした。城郭を復元するなかで、少しぐらい違っていても問題ないだろうと思う者もいるかもしれません。文石協とは、文化財を守り伝統技術を後世に伝える団体であり、そういった妥協はしてはならないと改めて感じました。

指導者養成研修

【第1回(姫路)】

期 間 令和元年5月11日(土)
場 所 日本城郭研修センター中会議室
受講生 技能会員9名、技術・研究会員4名
講 師 12名
内 容 選定保存技術の保持についての討議

【第2回(東京)】

期 間 令和元年6月29日(土)
場 所 文化財保存計画協会会議室
受講生 技術・研究会員1名
講 師 3名
内 容 伝統的文化財技術継承の課題討議

【第3回(姫路)】

期 間 令和元年7月15日(月・祝)
場 所 日本城郭研修センター特別会議室・中会議室
受講生 技能会員8名、技術・研究会員3名
講 師 18名
内 容 選定保存技術の保持についての討議

【第4回(大津)】

期 間 令和元年7月28日(日)
場 所 石積実習予定広場(滋賀県大津市)
受講生 技能会員4名
講 師 1名
内 容 現地実測・石積計画実習



第1回研修の様子

■新規加入会員紹介(令和元年5月11日役員会審査)

会員区分	氏 名	所 属
技能会員	宮下 真仁	(有)石匠宮下
〃	山本 善丈	庭善
技術・研究会員	大川 義明	大日本コンサルタント (株) 四国支店
〃	杉山 佳奈	(株)フジヤマ 都市・地域創造部文化財研究室
〃	藤田 紀子	(株)安藤・間 建築事業本部 設計統括部 設計企画部

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費(4月～翌3月)をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■事務局からのお知らせ

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(平成31年4月1日現在)

技能会員	172名
技術・研究会員	115名
一般会員	41名
賛助会員	22法人
評議会員	10名
合 計	360名(法人含む)

発行年月日 令和元(2019)年10月10日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890